

台風に伴う風の特性

台風が接近してくる場合、進路によって風の向きや強さが変化します。地形や周囲の建物などの影響で局地的に風が強くなることもあります。

平均風速が15m/s以上になると、風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出て、高所での作業は極めて危険な状態となります。

平均風速が20m/s以上になると、何かにつかまっていけないと立っていられなくなり、飛来物によって負傷するおそれがあります。通常速度で車を運転することは困難となり、屋根瓦や屋根葺材が飛散する建物もあります。

台風が接近してくると、風はさらに強くなります。

田畑や自宅周囲の様子を見に行くなどの屋外での行動はとても危険ですので絶対に行わないでください。



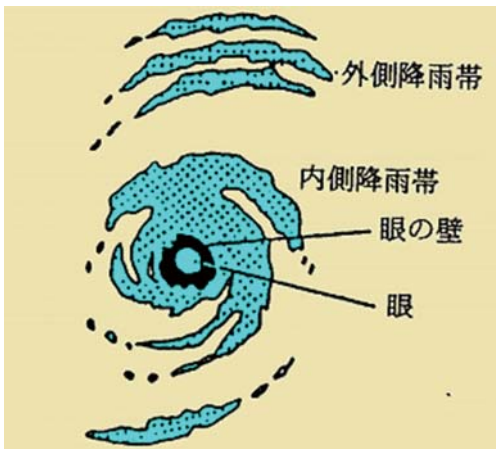
▲平均風速が15m/s以上
風に向かって歩けなくなり、
転倒する人も出てきます



▲平均風速が20m/s以上
何かにつかまっていけないと
立ってられなくなります

台風に伴う雨の特性

台風は、強い風とともに大雨を伴います。台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長時間にわたって降らせます。



台風は、垂直に発達した積乱雲が眼の周りを壁のように取り巻いており、そこでは猛烈な暴風雨となつていきます。この眼の壁のすぐ外は濃密な積乱雲が占めており、激しい雨が連続的に降っています。

さらに、外側の2000〜6000kmのところには帯状の降雨帯があり、断続的に激しい雨が降ったり、ときには竜巻が発生することもあります。これらの降雨帯は左図のように台風の周りに渦を巻くように存在しています。

また、日本付近に前線が停滞している、台風から流れ込む暖か

く湿った空気が前線の活動を活性化させ、大雨となることがあります。

台風接近時の強風と同様に屋外での行動はとても危険な状況になります。河川や側溝の様子を見に行くなどの屋外での行動は絶対に行わないでください。

おわりに

今回は、気象庁ホームページから台風に関する「知識・解説」を紹介しました。

気象庁ホームページでは、防災気象情報や天気予報のほかにも気象に関する様々は情報を見て学ぶことができます。台風接近時や大雨時に利用するばかりでなく、平穩時にも利用し防災や気象の知識を深めていただきたいと思います。

出典：気象庁ホームページ「知識・解説（台風について）」・解説文は要約、図表は一部加工して作成